

平成23年5月27日

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門」「はじめの一步”部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	視覚障害者が一人で街を出歩けるために、一般市民に手引き誘導できるスキルを修得させ“人がやさしい街づくり”を展開する。		
団体名	コミュニケーション・スクエア ネットワーク東海		
提案の活動を行う地域	過去10年にわたって一般市民を対象に講習会を展開してきたが、本年度も実施回数を増やして、一人でも多くの手引き誘導できる人を市内全域で育成したい。		
提案の内容	<p>視覚障害者は、街や駅などで方向が判らなくなると家に帰れず大変困るために、可能な限り外出を避けるようになっているのが現状です。そんなときに一般市民が気軽に声かけや誘導の手助けをしてくれるようになれば、視覚障害者も気軽に外出を楽しめるようになり社会参加が進みます。そのためには、一人でも多くの市民が、視覚障害者を手引きで誘導できる簡単なスキルを身につけていれば可能になり、障害者に対する偏見も減り、明るい街づくりが実現出来ると考えます。</p> <p><u>1. 年間開催回数</u> 1年間に受講してもらう人数を倍増するため、従来より5割多くの講習会を実施します。 5月8月10月12月2月の5回。</p> <p><u>2. 会場と講師の確保人数の決定</u> 8月の会場と講師は確保済みなので、10月以降は各区の公共の会場を安く確保したい。</p> <p><u>3. 広報活動の展開</u> ボランティア活動に興味のある市民を対象とするため、専門情報誌へ掲出するのが、もっとも効果が大きい。 年間賛助会員会費3千円で掲出が可能です。 すでに作成した8月の広報紙を添付します。</p> <p><u>4. 講習会の開催</u> ガイドボランティア講習の内容を一日講習用にダイジェストしたものを教材として使用し、手軽に受講できるものとします。受講内容は講義と実技から成り、実技の際は視覚障害者にも協力してもらい実際の歩行を体験します。</p> <p><u>5. フォロー</u> 一日の受講ではスキルに自信のない方向けに、当団体のように、毎月1回の頻度でウォーキングしている活動に参加してスキルを高める努力をしてもらいます。</p>		
活動期間	平成23年4月～平成24年3月	助成金交付申請額	16万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か
<p>(提案活動の必要性について上記観点から分かり易くご記入下さい。) ※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。</p> <p>市内に5千人以上の視覚障害者が居住していますが、自分の力で買い物や通院などで外出できる障害者は20%以下です。 80%の視覚障害者は、「社会参加が出来ていない」とか「閉じこもっている」とか云われて偏見の目で見られています。 しかし、一般市民が彼らを見る目を変え、移動の安全に力を貸してあげれば、彼らも安心して外出するでしょう。 市民の“心のバリアフリー化”を促進し、全国的にも“人がやさしい街”として誇ることが出来る名古屋市づくりに取り掛かる時期は早いでしょうか？</p>	
審査基準② 独創性	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
<p>(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <p>街や駅で、方向が判らずに困っている白い杖を持った障害者を見たときに気軽に声かけをしてあげたり、手引きで誘導してあげたりすることはそんなに難しいことではありません。 しかし、そうできる人になろうとすることは勇気が要ります。</p>	
審査基準③ 実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容が具体的にになっているか ・事業予算は妥当か
時期	活動内容
平成23年4月	ボランティア情報誌への広報掲出及び会場・講師の確保
5月	第1回手引き誘導法の講習会
6月	フォロー活動（ウォーキング行事の開催）
7月	ボランティア情報誌への広報掲出及び会場・講師の確保
8月	第2回手引き誘導法の講習会
9月	フォロー活動（ウォーキング行事の開催）
10月	ボランティア情報誌への広報掲出及び会場・講師の確保
11月	第3回手引き誘導法の講習会
12月	フォロー活動（ウォーキング行事の開催）
平成24年1月	ボランティア情報誌への広報掲出及び会場・講師の確保
2月	第4回手引き誘導法の講習会
3月	フォロー活動（ウォーキング行事の開催）

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
1. 開催回数	使用料賃借料	会場使用料	15,000
2. 講師の確保	諸謝金	講師謝礼金、助手謝礼金	70,000
3. 広報活動	印刷製本費	テキスト・紙代インク代	14,000
4. 講習会の開催	加盟費	賛助会員年会費	3,000
	旅費交通費	受講者旅費 520円×20名×5回	52,000
		講師・助手・スタッフ 520円×5回×5名	13,000
5. フォロー	参加費	ウォーキング参加費 300円×25名	7,500
	旅費交通費	2000円×25名	50,000
計			224,500

審査基準④ 発展性
 ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
 ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

心のバリアフリー化運動と人がやさしい街づくり活動は、区ごとに競争しながら発展させてゆく価値を持っています。

区ごとの人口に対する受講者人数の率で競争し、実際に街や駅で視覚障害者を手助けした実例の発表会をコンペ形式で開催するなど工夫すればいろいろとあります。

当団体では、11月に視覚障害者とボランティアと一緒に競技する「名古屋ユニバーサル運動会」を開催します。

審査基準⑤ 活動実績と主体性
 ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか
 (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。)
 ・具体的にどんな熱意を注いでいるか

※「はじめの一歩部門」は審査の対象とはしません。

※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。

平成14年に設立以来一貫して視覚障害者の社会参加を支援するために4つの活動を展開してきました。

1. QOLを高めるために、ボランティアさんと一緒に郊外や低山へのウォーキング活動を月1回の頻度で実施してきました。
2. 足腰の鍛錬とストレス解消のため、月1回の頻度で名城公園内の専用コースで二人乗り自転車による周回活動を実施してきました。
3. “人がやさしい街づくり”活動の一環として、一般市民を対象に手引き誘導法の講習会を開催し共生社会の実現に寄与してきました。
4. 視覚障害者が全国を一人でも旅行できる支援組織(JBOS)の名古屋地区担当団体として貢献してきました。

(平成20年度～22年度までの活動報告書を参照ください。)